

八雲町地域公共交通活性化協議会

令和5年4月26日設置



八雲町

概要

八雲町は、北海道南部渡島半島の北部に位置し、東は内浦湾、西は日本海に面している。面積は約956km²で渡島総合振興局管内最大、2024年10月末現在の人口は14,618人である。令和元年度に策定した「網形成計画」を基に地域交通を見直してきたが、令和2年10月に江差・八雲間の路線補助金が打ち切られ、熊石・八雲間の路線確保に取り組むなど、網形成計画策定時から地域交通の状況が大きく変化しており、効率的で持続可能な交通の確保と利用者ニーズに応じた交通手段の提供を目的に、現状の公共交通を総合的に見直すことが求められている。

○地域公共交通の現況

- ・函館バス株式会社(複数自治体路線3路線)
- ・JR北海道函館本線(6駅:八雲、黒岩、山崎、山越、野田生、落部)
- ・ハイヤー(4社:有限会社八雲ハイヤー、エスジーハイヤー株式会社、有限会社旭ハイヤー、合同会社キャンタク(福祉輸送))
- ・スクールバス、患者輸送バス
- ・熊石八雲間予約バス、檜山海岸線予約バス

○地域公共交通の課題

- ・通院や買物など日常的な地域交通の確保
- ・隣接自治体や主要都市(函館・江差)とのアクセスの確保
- ・利用者ニーズと交通サービスのミスマッチの解消 等

○調査の主な内容

- ・関係計画及び地域概況整理
- ・地域公共交通の実態整理
- ・町民ニーズ把握調査の実施
- ・地域の公共交通計画(案)のとりまとめ

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- R6.4.4 第1回協議会を開催
 - ・R5年度事業報告、網形成計画の一部変更 等
- R6.6.13 第2回協議会を開催
 - ・地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請 等
- R7.1.15 第3回協議会を開催
 - ・地域公共交通確保維持改善事業及び地域公共交通調査等事業に関する評価について 等

公共交通の概要

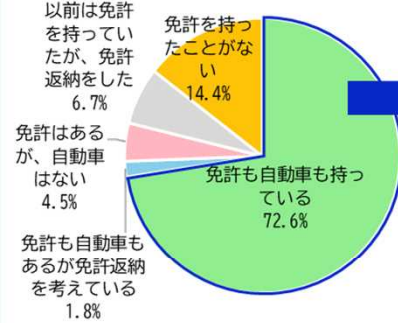


八雲町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

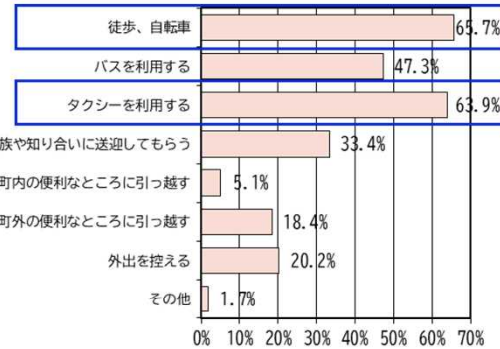
●事業の結果概要

- アンケート回答者の7割以上は、普段から自動車(自分の運転)を利用
 - 将来的に運転が困難となった場合は、徒歩・自転車やタクシーを利用する回答が多い
 - 現状の買物や通院時の公共交通の利用割合は低い
- ⇒ **生活交通として町内公共交通の維持及び利便性の向上が重要**

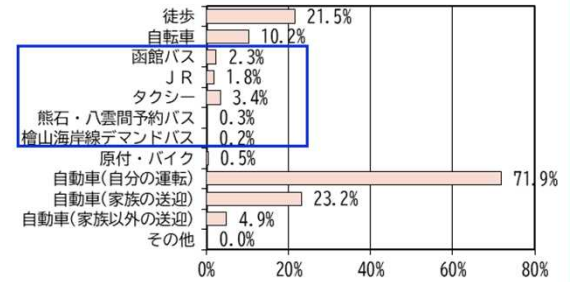
問4 免許・自動車の保有状況 (N=1,207)



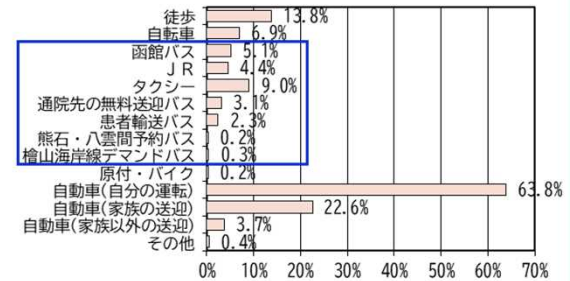
問6 将来、運転が困難になった場合の移動手段 (N=689)



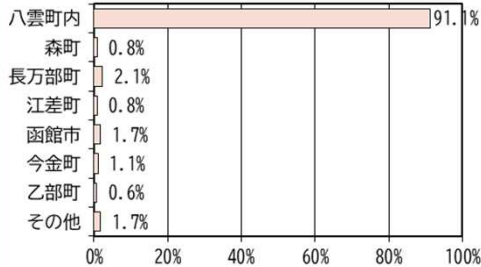
問10④ 買物に行くときの交通手段 (N=1,113)



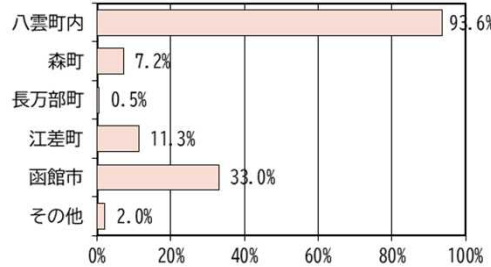
問11③ 通院時の交通手段 (N=899)



問9② 通学先・通勤先 (N=473)

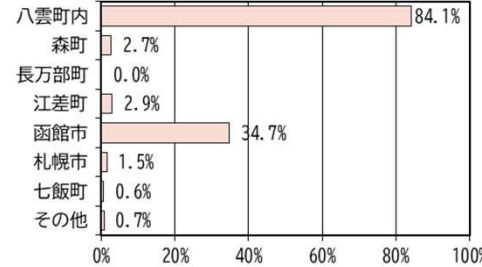


問10③ 買物先 (市町村: N=1,101 具体的な店名: N=638)



具体的な店舗 (N=638) ※上位10位			
自治体名	店舗名	回答者数	割合
八雲町	マックスバリュ八雲店	252	39.5%
八雲町	ラルズマート八雲店	162	25.4%
-	エーコープ (店舗不明)	162	25.4%
-	ラルズマート (店舗不明)	101	15.8%
八雲町	DCM八雲店	101	15.8%
八雲町	エーコープやくも店	89	13.9%
江差町	フードセンターブテン江差店	83	13.0%
-	ツルハドラッグ (店舗不明)	81	12.7%
-	サツドラ (店舗不明)	62	9.7%
-	イオン (店舗不明)	56	8.8%

問11② 通院先 (市町村: N=885 具体的な病院名: N=545)



具体的な通院先 (N=545) ※上位10位			
自治体名	店舗名	回答者数	割合
八雲町	八雲総合病院	337	61.8%
八雲町	医療法人社団まさた循環器内科クリニック	68	12.5%
八雲町	八雲町熊石国民健康保険病院	60	11.0%
八雲町	医療法人道南勤労者医療協会八雲ユーラップ医院	44	8.1%
函館市	市立函館病院	38	7.0%
函館市	社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院	36	6.6%
函館市	社会福祉法人函館厚生院函館中央病院	22	4.0%
函館市	医療法人社団江山会江口眼科病院	19	3.5%
函館市	医療法人社団玄心会吉田眼科病院	15	2.8%
江差町	北海道立江差病院	13	2.4%

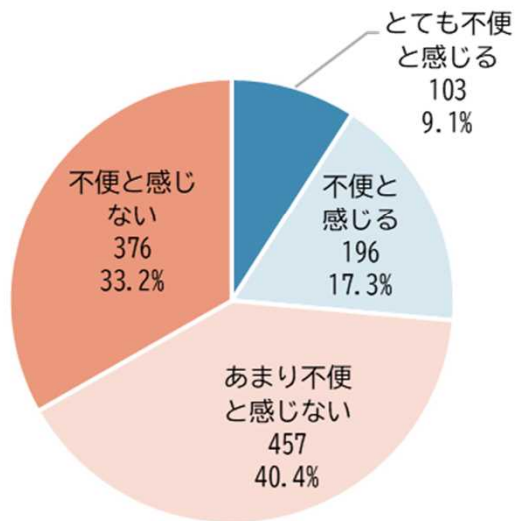
- 八雲町民の生活圏では、町内における移動が多いが、函館市への移動が多く回答
 - 江差町や森町など、居住地域に隣接している自治体が買物先となっている状況もみられる
- ⇒ **町内の移動に加え、生活圏自治体となっている函館市に移動できる交通手段の確保が重要**

八雲町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

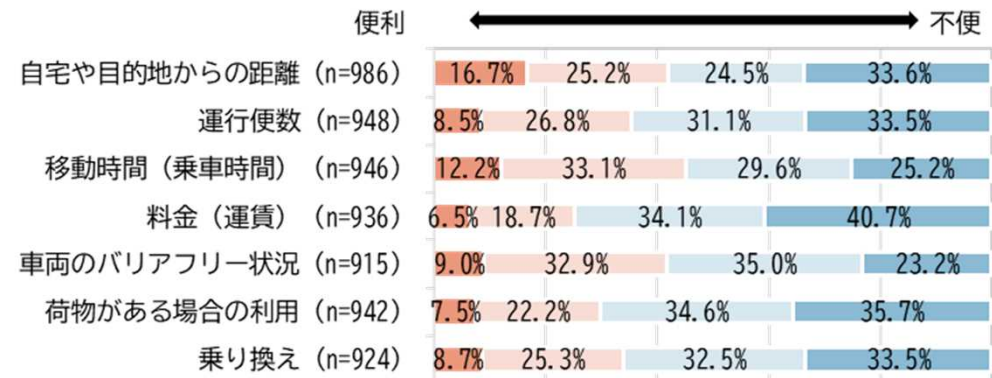
●事業の結果概要

- 普段のお出かけの際の交通に不便を感じている人が約3割
- ⇒ **地域交通の利用ターゲットとして捉え、必要とされる交通サービスの確保が重要**
- 鉄道の利便性に対しては「料金（運賃）」の不満が高いですが、「移動時間」の利便性が高く捉えられている
- また、バスの利便性に対しては「運行便数」の不満が高いですが、「自宅や目的地からの距離」の利便性が高く捉えられている
- ⇒ **地域交通の役割や強みを着実に周知し、地域交通を移動の選択肢として捉えてもらうことが重要**

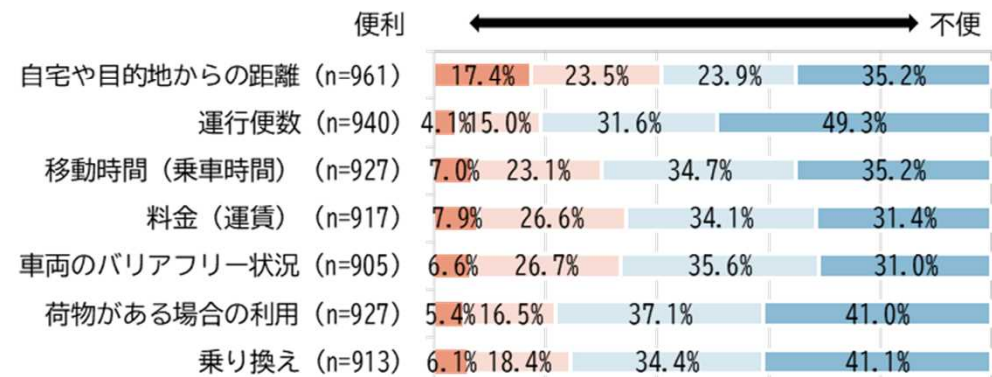
問19 お出かけの不便さ (N=1,132)



問20 鉄道の利便性に対する評価



問20 バスの利便性に対する評価



八雲町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

- 網形成計画策定時の基本理念「八雲町のひと・暮らし・まちをつなぐ公共交通を未来のために守り育てる」を基軸に、公共交通の課題及び取組の方向を整理
- また、八雲町内を運行する公共交通について、役割・位置づけを明確化
- 下記の内容の精査も含め、網形成計画のアップデートを図り、令和7年度中に実質的な地域公共交通計画の策定を予定

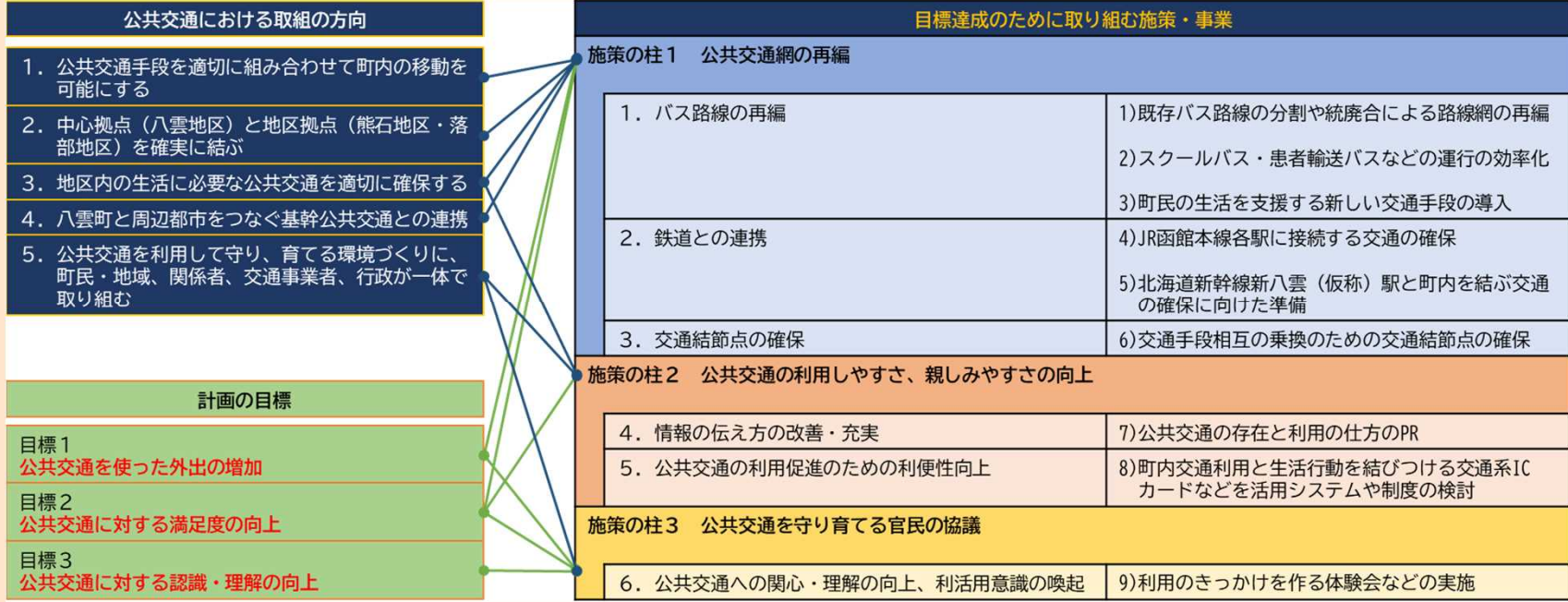
公共交通の課題		取組の方向	
課題1	自動車を自由に利用・運転できない町民の移動を支える公共交通網の確保	方向1	公共交通手段を適切に組み合わせることで町内の移動を可能にする
課題2	目指す将来都市構造や生活スタイルの実現に寄与する公共交通網の構築	方向2	中心拠点(八雲地区)と地区拠点(熊石地区・落部地区)を確実に結ぶ
課題3	周辺都市との交流、新幹線新駅開業効果獲得のための公共交通網の構築	方向3	地区内の生活に必要な公共交通を適切に確保する
課題4	町民の公共交通に対する関心や意識、行動を変える情報提供と利用環境づくり	方向4	八雲町と周辺都市をつなぐ基幹公共交通との連携
課題5	公共交通の運行や運営を担う交通事業者への支援	方向5	公共交通を利用して守り、育てる環境づくりに、町民・地域、関係者、交通事業者、行政が一体で取組む

交通手段	町における役割等	主な運行区域
新幹線	本州への公共交通の主軸であり、広域的な移動を支える役割を担う。現在は、新函館北斗駅が最寄りの駅となっているが、北海道新幹線「新八雲駅(仮称)」の開業を控えている。	町内外
鉄道(在来線)	鉄道は、町内の移動のみならず他都市との広域移動を担う公共交通機関であり、大量の移動需要にも対応できるものであり、公共交通網の中では基幹的な役割を果たす。	町内外
路線バス 1) 桧山海岸線■ 2) 函館長万部線■ 3) 快速瀬棚号	路線バスは、中量の移動需要に対応する公共交通機関で、公共交通網では町内と周辺市町間の移動、町内移動を担う幹線の役割を果たす。	町内外
熊石・八雲間 予約バス○△	江差八雲線の廃止代替交通として運行を開始し、熊石地区と八雲地区間を結ぶ生活交通として、町内の地区間移動の役割を果たす。	町内
桧山海岸線 予約バス○	桧山海岸線(大成)の廃止代替交通として運行を開始し、せたな町と熊石地区を結ぶ生活交通として、町内外の自治体間・地区間移動の役割を果たす。	町内外
スクールバス スクールハイヤー	町内に居住する小中学生の通学の足を確保する役割を果たす。	町内
スクールバス (一般混乗) 1) ひまわり号 2) やまびこ号	高齢者や自家用車のない方、高校生の通学手段の確保、住民福祉の向上などの役割を担う。	町内
患者輸送バス	熊石地区において熊石国民健康保険病院を利用する患者を輸送することを目的に運行しており、熊石地区に居住する町民の通院の足を確保する役割を果たす。	町内
福祉タクシー 料金助成事業	町民の移動支援として、在宅で心身に障がいを持つ方や75歳以上の方がタクシーを交通手段として利用場合において、タクシー料金の一部を助成する事業を実施しており、路線バス等の交通手段を利用することが困難な方の生活移動を支える役割を果たす。	町内
ハイヤー	ハイヤー(タクシー)は、以前は個人の交通手段との認識が強かったが、鉄道や一般の路線バスでは対応することが難しい、少量で多様な移動需要に個別、あるいは乗合利用できめ細かくサービスを提供する公共交通機関として公共交通網の隙間や空白を補完する役割を果たす。	町内外

八雲町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

- 網形成計画策定時の事業イメージ等を参考に、モビリティデータの活用や住民意見の取り入れ等により、令和7年度中に地域公共交通計画へのアップデートを図る



●事業実施の適切性

計画どおり適切に事業は実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・地域公共交通網形成計画の見直しでの調査であったが、状況の変化に対して多様な関係者からの意見も参考に調査結果をまとめることは大変だと思うが、今後も引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただくとともに、調査から得られた課題等を反映した地域公共交通計画をぜひ策定いただきたい。